

新1万円札発行記念
渋沢栄一の
ひ孫に聞く

令和6年度 講演会事業

SDGs×働き方・生き方 誰ひとり取り残さない社会にむけて

参加費
無料

現代にも生きている栄一の思想、また先人の生き方から学ぶ持続可能な社会（SDGs）とはどんなものなのか、そして、これから私たちはどう生きていくべきかなどを、栄一のひ孫で、科学者・経営者であり、また環境活動家として、現場を歩き持続可能な社会づくりを実践し続けてきた渋沢寿一氏に聞く。



講師：渋沢 寿一

NPO法人 共存の森ネットワーク理事長

2024.6.29 ± 14:00-16:00

場所 府中市市民活動センタープラッツ 6階第2会議室

定員 50名(先着順)

対象 渋沢家の教えに関心がある方、SDGsに関心のある方、これからの生き方・働き方のヒントを得たい方

託児 1歳以上の未就学児、先着2名、500円/名 託児締切 6/21(金)まで

申込 申込専用フォーム(<https://bit.ly/3TyMKo9>)にて

主催 府中市市民活動センター プラッツ

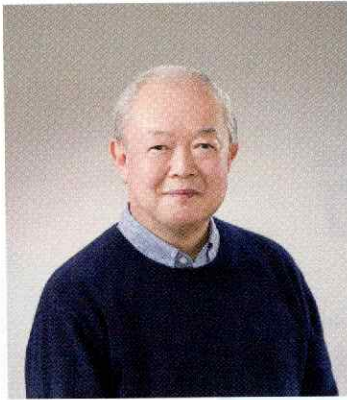
問合せ 042-319-9703 042-319-9714 moshikomi@fuchu-platz.jp

〒183-0023 東京都府中市宮町1-100 ル・シーニュ5,6階(京王線 府中駅南口直結)

申込専用フォーム



講師プロフィール



渋沢 寿一

NPO法人 共存の森ネットワーク理事長

1952 年生まれ。国際協力機構専門家としてパラグアイに赴任後、長崎オランダ村、ハウステンボスの企画、経営に携わる。NPO法人樹木・環境ネットワーク協会理事長を経て、現在は、NPO法人共存の森ネットワーク理事長。全国の高校生100人が「森や海・川の名人」をたずねる「聞き書き甲子園」の事業や、各地で開催する地域人材育成のための「なりわい塾」など、森林文化の教育・啓発を通して、人材の育成や地域づくりを手がける。岡山県真庭市では木質バイオマスを利用した地域内循環経済「里山資本主義」の推進に努める。明治の実業家・渋沢栄一の曾孫。農学博士。

日本資本主義の父・社会の利益を一番に考える人 渋沢 栄一

明治から大正の時代に経済の世界で活躍し、日本で初めて銀行「第一国立銀行」(現在のみずほ銀行)の他、東京ガス、日本製紙、東京証券取引所やキリンホールディングス、サッポロホールディングス、東京海上日動火災保険など、およそ500以上の企業の設立や運営に関わり「日本資本主義の父」と呼ばれています。

また、「自分よりも他人を優先し、社会の利益を一番に考える※」人物としても知られ、およそ600を超える福祉・教育事業にも関わっており、事業によって得た利益は社会に再び還元し、一部の資本家が利益を独占するのではなく、多くの人が幸せになるための富の分配を重視した栄一の哲学は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の理念とも重なります。

※「論語と算盤」より

令和6年度講演会 誰ひとり取り残さない社会(SDGs)にむけて 参加申込書

フリガナ

◆ お名前

◆ 団体活動をしている人(団体名)

◆ 連絡先 TEL

E-mail

◆ 託児 あり なし

◆ 参加理由

※ 内容は変更になる場合があります。ご了承ください。

※ ご記入頂きました個人情報は、府中市市民活動センタープラッツの事業運営のみに使用致します。